

小樽市ヒグマゾーニング計画

令和7年8月

1. はじめに

(1) この計画の趣旨

「ゾーニング管理」とは、人と野生動物を住み分ける手法の一つです。北海道が令和6年12月に改定した「北海道ヒグマ管理計画（第2期）」では、ヒグマでのゾーニング管理を推進することが位置づけられました。これを受け、小樽市ではハンターを中心に意見を聞き、ヒグマとの住み分けに必要な情報を収集しました。

この情報及び北海道により全道を対象として設定したコア生息地、また、都市計画法に基づく市街化区域といった、土地利用の状況、地形、対策の内容などを総合的に勘案してゾーンを設定し、各関係者が共通の理解を持ってヒグマ対策を行うため、この計画を定めました。

(2) 位置づけ

この計画は、ヒグマ対策を効果的に実施していくために、対応の日安などをあらかじめ定めたものです。ヒグマへの対応、特に出沒に伴う捕獲の判断などは、その事例に応じた情報に基づき、その安全性等を検討することが必要になるため、関係者がこの計画を踏まえた共通認識のもと、スムーズに連携して、対応を行います。

また、この計画は対応の日安ですので、特に計画期間等は設けませんが、その運用に当たって不都合が生じないように、必要に応じて順次修正を行うこととします。

なお、ヒグマ対策に関して、ゾーニング管理を前提とした国の交付金等を受けることとした場合、各交付金等の事業実施計画作成に当たり、この計画を参照して実施していくことになります。

2. 各ゾーンの定義

ゾーン	コア生息地	緩衝地帯	防除地域	排除地域
エリア概要	健全な個体群の維持（繁殖や生息）を担保する上で重要な 奥山等の地域	コア生息地と防除地域・排除地域の間の地域	農業、水産業など人間活動が盛んな地域	市街地、集落内の住居集合地域等の人間の居住地
ヒグマの生息	ヒグマの生息域	ヒグマの生息域	ヒグマの生息は許容しない	ヒグマの侵入は許容しない
人間活動	ヒグマの存在を前提とした限定的な利用（登山など）	ヒグマとの遭遇を想定した利用	日常的な利用があるが、人の目が届かない時間・場所も多い	日常的かつ高密度な利用

3. 各ゾーンの対応方針

	コア生息地	緩衝地帯	防除地域	排除地域
ヒグマへの対応方針	安定した生息に配慮	問題を未然に防ぐ	寄せつけない・被害を防除	入らせない・入ったら迅速に対応
ヒグマへの取組の方針	・生息地の保全 ・問題個体以外の捕獲は行わない ※春期管理捕獲を除く	・捕獲による個体数の抑制	・誘引物の適切な管理 ・被害防止のための捕獲 ・排除地域への侵入抑制	・市街地への侵入防止 ・緊急時の対応体制の整備
	(共通) 出沒情報の収集・発信 普及啓発・調査研究の促進			

4. ゾーンごとの取組及び実施体制

ゾーンごとの主な取組は表3のとおり。また、特に取組を重点的に推進する地区は表4のとおり。ゾーニング管理を通じ、これらの取組を推進するとともに、実施体制の整備と充実を図っていく。

<表3：ゾーンごとの主な取組>

主な取組	コア生息地	緩衝地帯	防除地域	排除地域
被害防止のための捕獲	—	—	○	○
ゾーニング管理としての捕獲 (被害防止のための個体数管理捕獲)	—	○	—	—
春期管理捕獲	○	○	○	—
目撃情報の収集及び注意喚起の発信	○	○	○	○
電気柵の効果的な設置管理	—	—	○	—
ドローンを活用した、各種調査	—	—	○	—
作物残渣と廃棄物（生ごみ等）の適正処理	—	—	○	○
林縁部、河川敷の草刈り	—	○	○	○
市街地出没時における対応訓練	—	—	○	○
国有林、大規模民有林との連携	○	○	—	—
調査研究	○	○	○	○

<表4：取組を重点的に推進するエリア>

No	地域	概要
重点1	見晴、星野地区	令和5年には、住宅地で出没が頻発しており、山裾から住宅地までの距離が近く、教育、病院施設もある。また、登山人気の山もある地区で、ヒグマ出没による事故、及び周辺生活環境への影響が危惧されている。
重点2	春香、張碓地区	春香山、和宇尻山を水源とする小河川流域は、ヒグマの生息が濃い地区であり、国道5号海側の市街地での出没も近年増えている。
重点3	新光町、新光5、朝里川温泉2地区	温泉地区までの朝里川沿の道道周辺は住宅や福祉施設が連なっている。近年、宿泊施設周辺での出没があり、生息地と距離が近いことから、影響が危惧されている。
重点4	天神2・3、奥沢5、潮見台、望洋台地区	望洋台3は、毛無山裾近くまで住宅地があり、近年は目撃情報が多発している。また、パークゴルフ場、市サッカー場などスポーツ集客施設や、キャンプ場も開設されている地区で、潮見台4の幹線路周辺は近郊農地であり、部分的にクマの出没ルートが確認されている。
重点5	最上2、天狗山地区	令和5年、夜間の市街地で、親子グマが目撃されている。また、天狗山周辺は、市内外からの来訪者が多く、観光利用と夜間を含む住宅地の安全確保の両立が課題となっている。
重点6	蘭島2、忍路2、桃内2地区	余市小樽自動車道のトンネル区間から、近隣の森林区域が連坦して、唯一蘭島方向の市街地へ向いやすい箇所となっていて、目撃情報も多い。

5. ゾーニング図

別図のとおり。

各ゾーンの定義、及び対応方針を踏まえ、市域を、「コア生息地」「緩衝地帯」「防除地域」「排除地域」に分け設定。

取組を重点的に推進するエリアとして、6箇所（重点1～6）を配置。

※その他 主にコア生息地の中にあるゴルフ場、採石場、自衛隊敷地を指す。市が設定するゾーニングの考えによらず、基本的には土地所有者でヒグマ対策を実施してもらう場所と設定。ただし、出没したヒグマへの対応や具体的方策については、市と土地所有者で協議の上で進める。